

# 第11回 中泊町少年の主張大会

少年の主張大会が8月25日(金)に総合文化センター「パルナス」で開催され、町内の6小中学校の代表計8人が発表をしました。ここではその発表の一部を紹介します。

## 広げよう 私たちのまつり

中里小学校6年 **木村 柚 姫**



私は4歳のころから横笛愛好会に入り、今は中里小伝承部にも所属している。初めは鐘をやっていたが、小学2年生の途中から父の一言で笛を始めた。感染症の流行により、伝承部として祭りに出る機会が減り、部員も減少している。祭りのおはやしを引きついでいくためには、いろんな人が祭りについて知り、教えていかなければいけない。そのために、これからも祭りでたくさん演奏し、教えていきたい。

## 祖父の思いを受け継いで

薄市小学校6年 **伏見 優 汰**



私は、祖父を尊敬している。私が知っている祖父は、人のために働いたり協力したりした人だった。祖父には、地域のために働く行動力や人を思いやる気持ちがあったと思う。私も、そんな祖父を見習って、人を思いやりみんなを引っ張っていきたい。祖父から学んだことや、人のため地域のためという思いを受け継ぎ、将来、中泊町の発展のために協力していきたい。

## 中泊町の宝 津軽鉄道

中里中学校1年 **古川 龍之介**



津軽鉄道は、コロナ以前から経営困難になり、今ではレールオーナーが必要になるほど大変になっている。こうなると廃線になり無くなる可能性があるため、私たちが高校生になった時に津軽鉄道では通えなくなるかもしれない。人ごとではなくなる。津軽鉄道にはストープ列車やラッセル車などの珍しくて、貴重なものがたくさんある。町民の交通手段だけでなく、全国の鉄道好きや観光客が津軽鉄道に乗りたくて青森県を訪れる。中泊町にとって大切な宝だ。鉄道好きや観光客は津軽鉄道の価値に気づいている。私たちこそ津軽鉄道という宝の価値を学ぶべき。ふるさとの宝を体験してほしい。

## 差別のない社会

中里中学校2年 **秋村 寿 矢**



「差別」という言葉を聞くと、遠い外国のできごとのように感じないか。わたしも、この前までは「差別」なんて自分には関係のないものだと思っていた。だが、わたしの学級内で一学期におきた二つのできごとで、「差別」について考えるようになった。「差別」をなくすということは、簡単なことではない。でも、わたしたち一人ひとりの心がけでなくすことはできる。少しずつかもしれないが、それが「差別」のない社会へつながっていくのだと思う。

## 友達づくりで私ができること

武田小学校6年 **加賀田 紗 季**



私は一度仲良くなったら、言葉づかいがあらくなることに悩んでいる。対策としてできそうなのは、今も意識しているが、会話の中の言葉に気をつけることと相手の良いところを素直に相手に話すということ。相手のことを理解しようとするのが大事だと思う。これからもいろいろなことで悩むと思うが、その度に、今できそうなことを考えたり、周りに相談したりして自分なりに気持ちの切りかえ方を見つけたい。また、友達が悩んでいたら、一緒に考えてあげられる人になりたい。

## 理想の小泊

小泊小学校6年 **長谷川 優 来**



私が住んでいる小泊は、人口が減り続けている。中でも、子供や若者の減少が目立ち、高齢者の割合が多くなっている。私たちにできることは小泊にあるたくさんのおすすめスポットを知り、観光客に説明や紹介ができるようになることだと思う。すてきな未来を目指して、たとえ小さくても、今できることをみんなで考え、取り組むことで、私が大人になったときに理想の小泊になっていたら、私もずっと小泊に住み続けようと思う。これが、私たちの考える理想の小泊だ。

## 小泊の良さとおよからの自分へ

小泊中学校1年 **山田 結 萌**



私は小泊の事が大好きです。最初はあまり好きではなかったが、小泊ですずっと過ごしていると小泊の良さが分かって自分の住む町が大好きになった。地域の方がとても優しくったり、自然が豊かだったりなどたくさんの良いところがある。これから私は地域の人たちのように挨拶をしっかりして、優しく接し、地域の人たちへの思いやりを大切にしていきたい。

## 理解を深めてほしいアレルギーのこと

小泊中学校2年 **藪田 大 夢**



私はとても小さいときから魚アレルギーをもっているため、いろいろな魚を食べたくても食べられない。症状は人にもよるが、じんましんやかゆみ、ひどいと呼吸困難になることがある。アレルギーを持っていない人は持っている人の苦しみを実際に感じることはできないが、想像することはできると思う。多くの人がアレルギーについて興味を持ち、アレルギーへの理解を深めることで、すべての人が安心、安全に食事ができる世の中になって欲しい。

## 住み慣れた地域で健康づくり

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の取り組み

「人生100年時代」といわれる今、一人ひとりが住み慣れた地域で健康であることを目的とした高齢者の保健事業と介護予防の一体的取り組みが、8月1日(火)に上豊岡、8月31日(木)に芦野、9月11日(月)に小泊の各会場で行われました。

当日は、自分の筋力量がわかる「体組成計」や歩行状態が確認できる「歩行年齢測定」などを実施、座学として自宅でできる健康づくりのヒントや継続する大切さを学びました。参加者からは「歩いてこられる場所で、体のことを知ることができた。『歳だから…』と諦めることなく、元気に取り組んでいきたい」「声をかけられて来てみた。改めて毎日の積み重ねが大切だと学んだ」と話しました。

各自治会ははじめ、集落支援員、民生委員、保健協力員の協力のもと、気軽に集い楽しめる健康づくりの場となりました。



上豊岡会場



芦野会場



小泊会場

## ごみはどう処理されているの？

中里小4年生がごみ学習会を実施

ごみ学習会を8月31日(木)に中里小4年生が行いました。

児童たちは中泊町最終処分場と西部クリーンセンターの2か所を回り、ゴミが処分されるまでの工程を学びました。

最終処分場では、化学薬品や微生物を使った実験を見せながらの説明があり、興味津々の様子で見学をしました。

また、西部クリーンセンターでは、燃やした後の灰をクレーンで運ぶ作業を実際に体験し、喜びの声をあげていました。

児童たちは、「ごみの処理がどれだけ大変なのか分かった」「ごみを減らすためにまず自分ができることをしていきたい」と話しました。



## 食育と健康指導の役に立てば

西部郵便局長会つがる部会が寄贈

西部郵便局長会つがる部会が8月31日(木)に町長のもとを訪れ、食育と健康指導に役立ててほしいとオープンレンジと血圧計4台、腕帯1枚を寄贈しました。

町長は「町民の生活習慣病に関する指導などに有効活用したい」と話しました。



## いつまでもお元気で

令和5年度敬老会開催

長年にわたり社会に尽くしてきた長寿者を祝う敬老会が、総合文化センター「パルナス」で9月15日(金)に開催されました。

主催者を代表して町長は「元気な100歳を目指して健やかに笑顔で長生きしてほしい」と挨拶をしました。

今年度の顕彰対象者は、88歳長寿者141人、ダイヤモンド婚を迎えた夫婦は5組、金婚を迎えた夫婦は3組でした。

## 町の未来を考える

町長と小・中学生の意見交換会

中里小6年生が9月21日(木)に町長と小・中学生の意見交換会を行いました。

子どもたちは、町の人口が減っていく中で町では何を行っているのか聞き、自分たちには何ができるのか考えました。

参加した児童は「町の未来をしっかりと考えることができた。自分たちには何ができるか探していきたい」と話しました。

